

卷頭言

むなかた電子博物館紀要委員会

委員長 平井 正則

今夏は、福岡県・宗像市・福津市を中心として取り組んでいる"「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群"世界遺産登録の最終的な決定が行われます。いよいよという感じです。本誌としても、この登録は大変意義深いものと考えております。また、まさに昼夜の別なく関係事業に忙しい行政機関、関連団体には心から労い申し上げたく存じます。

今年度、紀要8号は、まず、宗像郷土にて観察される「アサギマダラ」に関する特集を組みました。このむなかた電子博物館委員のひとりでもある西田 迪雄氏をリーダーとして、この宗像にて精力的に活動を進める方々にお声がけを頂き、アサギマダラの特徴や飼育、その食草など、多様な観点からアサギマダラの魅力を明らかにして頂きました。また、さらに、福岡教育大学ドイツ語の先生でありました船津 建氏の宗像生活に根差した論文も大変興味深いものです。

本紀要是、むなかた電子博物館の取り組みやその記録だけに留まらず、それを支えている地域の文化や様々な活動など、思う限り、広い間口でのページ形成に配慮してきたつもりです。本号もその例外ではありません。ただ、編集スタッフの不足が創刊以来続き、そのため各年度の編集子には多大のご苦労をおかけしています。

むなかた電子博物館はもちろん、博物館を支える重要な柱のひとつであるこの紀要についても、今後ともよろしくお願いします。

梅が膨らみ、この冬の三寒四温が始まりそうな曇り空にて